

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第54号

令和6年2月29日発行
発行/千葉県がんセンター

基本理念

私たちは、心と体にやさしく、希望の持てるがん医療を提供します。

巻頭言

患者減少時代における地域医療構想と病診連携

副病院長・肝胆膵外科部長 加藤 厚



日本では、出生率の低下による若年齢者の減少と高齢者数の増加による少子高齢化が急速に進行しており、2008年をピークに人口減少時代に入りました。医療界にとってそれ以上に深刻な問題は「2050年の65歳以上人口が2020年を下回る市区町村が全体の70%に」及ぶという事実です（<https://www.ipss.go.jp>）。有病率の高い高齢者数が増えてきた時代が終わり、大都市圏やその周辺などの一部の地域を除いて、今後、患者減少が急速に進むことが予測されています。事実、安房医療圏や香取海浜医療圏では2010年代から患者減少が始まり、安房医療圏では10年前に比較して入院患者数が約3割減少していると推定されています（千葉県保健医療計画より）。

医療の地域偏在や医師不足などとともに、患者減少はあらたな医療崩壊を招く可能性があり、そのための準備を始める必要があります。急性期病床の適正配置などは喫緊の課題であり、医師や看護師などの限られた人的リソースを有効に活用するとともに、各医療機関が競争するのではなく、自院の特徴を活かしながら協力・共存していく方向性が求められます。

また、2022年の診療所数は10万5182カ所と2012年に比較すると約5%増加し、2021年は新規の開設数が9500カ所と過去最多となっています。「働き方改革関連法」により2024年4月から時間外労働の上限規制が設けられ、医師の非常勤勤務やアルバイトに制約がかかることや、自分のやりたい医療に対する時間的制約が生じることなどにより勤務医の開業医指向が急速に高まった結果と考えられます。地域医療を支える診療所の増加は望ましい反面、地域の中核病院の医師確保がますます困難になっています。こうした状況の中、病診連携は極めて重要であり、千葉県がんセンターでも地域医療連携室を中心に病院全体で病診連携に取り組んでいます。がん疾患の循環型病診連携のために逆紹介率の向上や顔の見える病診連携を積極的に推進し、結果として患者さんの医療の質の向上につながり、当院の基本理念である「心と体にやさしく、希望の持てるがん医療の提供」ができるよう、今後とも地域の方々と連携を取り、がん医療に貢献していく所存です。

臨床の現場から

核医学診療部

核医学診療部長 久山 順平

千

千葉県がんセンターの核医学診療は、2つの柱から成り立っており、1つは薬剤の体内分布を視覚的に評価する画像診断の一面、そしてもう1つは放射性薬剤の特異的な集積箇所を攻撃を加えて治療効果を図る放射線治療の一面を提供しています。

[核医学画像診断]は、単純に形態を評価するのではなく、対象組織の代謝活動や細胞膜上の特異的物質の発現、血流状態などの機能を含めて評価できることに特長があります。がんセンターという病院の性質上、どうしても腫瘍の活動評価を目的とした検査がメインとなりがちですが、臓器の機能・予備能評価、術後の機能予測など腫瘍組織以外の全身状態の評価にも有用な検査が多く揃っています。20種以上の検査を十分に周知できていないのが現状ですが、ぜひ我々にご相談

のうえで活用していただきたいと考えています。

[核医学内照射治療]は、正常な細胞への影響が少なく、患者さんの苦痛・身体へのダメージが小さい治療法です。しかし甲状腺癌に対するI-131治療に続く薬剤がなかなか登場せず停滞感があり、保険診療上の低い評価もあって核医学治療専用病室は全国的に減少の一途を辿ってきました。分化型甲状腺癌の臨床における需要は高まるいっぽうであったにもかかわらず、それに応える施設側のキャパシティが全く足りない状況となってしまったのです。千葉県がんセンターはこうした現状を踏まえ、新病院建設にあたって専用病室を3室に増床し核医学治療の充実を目指す方針を打ち出しました。

幸いこうした計画の進行と時期を揃えて前立腺がんの骨転移に対するゾーフィゴや、神経内分泌腫瘍に対するLu-177ルタテラ、褐色細胞腫に対するI-131ライアットといった新たな治療薬が認可され、がん治療の臨床における核医学治療の存在感は増している状況にあります。今後より症例数の大きな癌種に対する治療薬の登場も期待される状況において、恵まれた設備を活用して県民のニーズに応えていけるよう努力して参ります。



地域連携室だより

患者さんが安心して診療を受けられるように

地域医療連携室 看護師長 武田 英樹

患

者さんが安心して受診できるように、千葉県がんセンターでは、随時、初診予約枠を調整しております。患者さんがなるべく早く希望する日時に受診できるように対応しておりますが、初診予約が一時的にすぐが取れないこともあります。診療科と地域医療連携室でも予約状況を把握し、スポット的に初診予約枠を増やしたりしております。病院の外から空き状況はなかなかわかりませんが、患者さんが少しでも早く受診できるよう取り組んでおります。また、検査や治療、臓器別により、該当の診療科の担当医師の初診予約をしていただいておりますが、呼吸器内科と呼吸器外科では、診断がついていない症例、治療適応の検討が必要な症例なども、肺癌が疑われる場合には、どちらの診療科でもご紹介いただけます。但し、地域の医療機関の先生方が手術適応と考えられる場合には、原則として直接、呼吸器外科にご紹介下さい。呼吸器内科と呼吸器外科の診療科同士で連携しながら、初診予約を受ける体制を取っております。各診療科の初診担当医は随時変更されておりますので、がんセンターニュースや千葉県がんセンター「初診担

当医表」のwebページをご覧ください。

2023年12月1日に早期乳がんに対してラジオ波焼灼術(RFA)が保険収載されました。これを受け、千葉県がんセンターでは2024年1月より、早期乳癌に対して保険診療でRFA治療を開始しました。詳しくは千葉県がんセンター 乳腺外科のwebサイトをご覧ください。

千葉県がんセンターは、今後も地域連携や院内連携を図りながら、患者さんが安心して診療を受けられるように努めてまいります。

最新の初診担当医は、こちらで確認で

千葉県がんセンター 初診担当医表 webページ

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/riyo/gairai/shoshintantoui20210501.html>



千葉県がんセンター 乳腺外科 webページ

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/shinryoka/nyusen/index.html>



治験アップデート

当センターでは以下の治験を実施しています

当院で一年間に新たに開始される治験は25件前後で、継続中の試験は80件前後あります。募集中の試験は下記のように乳癌、リンパ腫、胃癌、前立腺癌などの試験が多いですが、下記に含まれない臓器の治験も今後開始される予定があります。

患者さんが参加できるかもしれないと思われるときは、総合支援センターへご連絡いただくか、該当の診療科へ是非ご紹介ください。治験に参加できない場合であっても、臨床研究や標準治療についてもご案内できます。

治験臨床研究センターでは募集中の治験等の情報を提供しています。概要は以下のとおりですが、詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

現在募集中の治験情報 R5/12月末時点での募集中試験数は30件

- | | | | |
|----------|-----------|------------|------------|
| ①食道がん 2件 | ④前立腺がん 2件 | ⑦リンパ腫 5件 | ⑩非小細胞肺がん1件 |
| ②胃がん 3件 | ⑤膀胱がん 2件 | ⑧骨髄線維症 1件 | |
| ③大腸がん 2件 | ⑥乳がん 10件 | ⑨多発性骨髄腫 2件 | |

ホームページアドレス

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/riyo/kanja/chiken/jissijoukyou.html>



研究の現場から

予防疫学研究部の 研究プロジェクトの紹介

予防疫学研究部室長 道端 伸明

千

千葉県がんセンター研究所予防疫学研究部では、現在4つの主要な研究プロジェクトが進行中です。

まず、がん登録事業とそのデータ活用についてです。1975年から千葉県がん登録事業の登録室として、地域がん登録を担当してきました。2016年からは全国がん登録に移行し、日本国内のがんの罹患状況がより正確に分かるようになってきました。それに伴い、がん登録情報のさらなる活用が望まれています。予防疫学研究部では、千葉県内の情報を用いて疾患マップ等を作成し、千葉県のがん登録事業報告書等を通じて毎年報告をしています。新しい試みとしては、CONCORD（コンコルド）-4という各国が、がん情報を提供する国際的なプロジェクトに参加する準備を進めているところです。また、この他にもがん登録情報を用いた独自研究を検討しています。

次に、J-MICC 研究への参加です。これは、生活習

慣と遺伝子型の関係を調べる多施設共同コホート研究で、全国14の研究機関が10万人の参加者を30年間追跡する予定です。この研究から既に様々なことが解明されています。予防疫学研究部では、このデータを用いて、食事摂取の多様性（食品種類の多さ）が高いほど、メタボリックシンドロームの発症リスクが低いことを明らかにしました（現在、英語論文を投稿中）。

第三に、リアルワールドデータ研究です。これは、実際の臨床で得られる診療情報を集めた医療ビッグデータを用いた研究で、主にDPCデータを用いた研究を行っています。東京大学、国立がん研究センターなど多くの施設と共同研究を進めています。

最後に、臨床研究支援についてです。千葉県がんセンターは、病院と研究所が併設されているため、研究所だけでなく病院の医療従事者とも連携し、臨床研究を推進することが可能です。現在は、薬剤部と共同で、がん患者さんにおける抗うつ薬の処方実態調査研究を進めています。この他にも、様々なテーマで病院と連携した共同研究を進めていきたいと考えております。

千葉県がんセンター研究所予防疫学研究部では、これらの研究を通じて、がんの予防と治療に関する様々な研究成果を挙げることを目指して参ります。どうぞよろしくお願い致します。



お知らせ・報告

地域医療連携懇談会のご報告

令和5年11月25日(土)13:00より千葉県がんセンター4階大会議室において、地域医療連携懇談会を会場とWEBのハイブリッド形式で開催致しました。

地域医療連携懇談会は、千葉県がんセンターの診療に関する最新の情報をお伝えすること、地域の医療機関の皆様との連携をより密にすることを目的に開催しております。

当日は病院長による挨拶の後、患者総合支援センター部長より「患者総合支援センターについて」、婦人科部長より「千葉県がんセンター婦人科について」、ハイパーサーミア医長より「千葉県がんセンターにおけるハイパーサーミア併用の難治性がん治療」、呼吸器内科部長と呼吸器外科部長より「当院の肺癌診療」、緩和医療科部長より「当院緩和ケア病棟の役割」、サルコマーセンター部長より「サルコマーセンターについて」を講演いたしました。

講演後は診療科ならびに部門の紹介と、意見交換会、新病院のご案内をさせていただき、病院をあげて懇談会を開催致しました。

当日は医師、看護師、社会福祉士、事務職、相談員と多職種の皆様にご参加いただきました。アンケートでは、診療科からの説明や見学会もありとても有意義な時間だった、身近に感じることができたなどといったご意見をいただいた一方で、もっと直接話をしたり挨拶したりする時間があると良かったというご意見もいただきました。

今回いただいたご意見を参考に、地域医療連携室は顔の見える連携を目指して今後も皆様と直接お話をさせていただく機会を大切にしたいと思っております。次年度もまた多くの医療機関の皆様にご参加いただけるよう企画運営してまいりますので、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。



初診担当医表

*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

2024年1月1日より

| 診療科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----------|----------------------------------|---|--|---|--|
| 肝胆脾外科 | 岩立 陽祐 | 賀川 真吾 | 加藤 厚 石毛 文隆 | 柳橋 浩男 | 有光 秀仁 |
| ハイパーサーミア | 千葉 聡 | 千葉 聡 | 千葉 聡 | | 千葉 聡 |
| 食道・胃腸外科 | 鍋谷 圭宏 (第2・第4) 外岡 亨 水藤 広 | 鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨 | 早田 浩明 桑山 直樹 | 鍋谷 圭宏 成島 一夫 加野 将之 桑山 直樹 | 加野 将之 水藤 広 |
| 消化器内科 | 傳田 忠道 三梨 桂子 鈴木 拓人 喜多給美里 | 傳田 忠道 須藤研太郎 天沼 裕介 杉田 統 | 三梨 桂子 中村 和貴 喜多給美里 今関 洋 石垣 飛鳥 | 傳田 忠道 三梨 桂子 三浦 義史 古賀 邦林 徳長 鎮 箕輪真寿美 | 須藤研太郎 中村 和貴 天沼 裕介 北川 善康 今関 洋 |
| 呼吸器外科 | 岩田 剛和 | | 岩田 剛和 | | 岩田 剛和 |
| 呼吸器内科 | 水野 里子 芦沼 宏典 | 新行内雅斗 芦沼 宏典 | | 新行内雅斗 水野 里子 | 芦沼 宏典 |
| 乳腺外科 | 中村 力也 年光 亜水 | 中村 力也 羽山 晶子 | 中村 力也 羽山 晶子 年光 亜水 | 羽山 晶子 | 年光 亜水 吉村 悟志 |
| 形成外科 | | | | 徳元 秀樹 | 徳元 秀樹 |
| 婦人科 | 鈴鹿 清美 海老沢桂子 | 鈴鹿 清美 井尻 美輪 (第2・第4) 草西多香子 村岡 純輔 | 田中 尚武 | 鈴鹿 清美 井尻 美輪 草西多香子 (第2・第3・第4・第5) 村岡 純輔 | 海老沢桂子 井尻 美輪 |
| 泌尿器科 | 小丸 淳 萩原 和久 新井裕太郎 | 米田 慧 門野 洋大 飯田 優輝 (第2・第4) | 萩原 和久 米田 慧 新井裕太郎 | 佐藤 陽介 門野 洋大 | 小林 将行 米田 慧 飯田 優輝 |
| 腫瘍血液内科 | 武内 正博 真子 千華 | 熊谷 匡也 辻村 秀樹 三科 達三 | 武内 正博 辻村 秀樹 | 熊谷 匡也 三科 達三 真子 千華 | 武内 正博 熊谷 匡也 辻村 秀樹 |
| 脳神経外科 | 井内 俊彦 堺田 司 | (担当医) | 井内 俊彦 長谷川祐三 | (担当医) | 堺田 司 長谷川祐三 |
| 頭頸科 | (担当医) | 木下 崇 森本 侑樹 浅井 俊一 | | 木下 崇 森本 侑樹 浅井 俊一 | |
| 整形外科 | 米本 司 鴨田 博人 | 鴨田 博人 萩原 洋子 | | 石井 猛 (第2・第4) | 米本 司 萩原 洋子 |
| 緩和医療科 | 坂下 美彦 | | 坂下 美彦 | | |
| 核医学診療部 | | 小川 和行 | 久山 順平 | 久山 順平 | 小川 和行 |

| | | | |
|------------------|---|--|---|
| 電話 予約 | ●初診・再診予約(患者予約) 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 043-263-4071 | ●予約変更(患者予約) 月曜日～金曜日 午後1時～午後4時 043-263-4071 | ●医療機関からの直接予約 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 043-264-5633 |
|------------------|---|--|---|

ご案内の交通

JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車
小湊バス: 千葉県がんセンター行乗車・終点千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側

千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
 TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>